

未来を開く

長井市立長井北中学校 No76 令和5年 2月14日

生徒会活動を「総括」

2月10日（金）「生徒総会」が開催された。令和4年度の活動を振り返り、成果と課題を明確にして、さらなる飛躍につなげることを確認した。

◆生徒会スローガン

「繋（つなぐ）」

重点：あいさつ、おもいやり

スローガンと重点について、企画会より次のような提案がされました。

今年度は「先輩方が引き継いでくださった北中の伝統や、北中生としてのたくましい姿をこれからも繋いでいこう」という意味をこめた『繋』というスローガンのもと、活動を行ってきました。



今年度の生徒会活動の総括を報告する、生徒会長。(上)

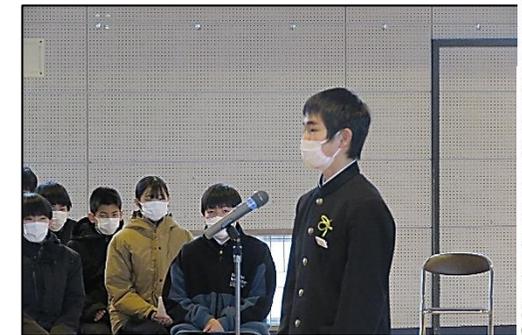


壇上の議長団の進行により、答弁者と質問者
の間で討論が円滑に進められていきます。(上)

会でのあいさつが小さいこと、返事・反応が少ないということが課題として挙げられました。

2つ目の「思いやり」では、学校や地域でのボランティア活動に自主的に参加する人が増え、地域との関りをさらに広げることができました。一方で担当の仕事をしっかり行っている人、行っていない人に差があるということが課題として挙げられました。

来年度はこれらの課題を改善できるよう、全校生一人一人が自分のすべきことやその活動の継続を意識し行動に移すとともに、今年度以上に活気のある北中の姿、北中生の姿に繋げていってほしいと思います。



質問者は、感謝・代案・頑張ることなど
前向きな姿勢で協力を約束します。(上)

重点の一つ目である「あいさつ」では、自分からあいさつをしてくれる人や積極的にあいさつの取り組みをしてくれる人が増え、昨年度よりも「会釈」が良くなったと思います。

しかし、「自分から」に個人差があることや、集

あの日を忘れない！「思い」をつなぐ

～3. 11東日本大震災から12年 記憶を風化させてはならない～

平成23年3月11日、午後2時46分。突如襲った大地震。岩手・宮城・福島3県で、死者15,900名 行方不明者2,523名 計18,423名の人的被害が確認されている。

(令和4年2月10日現在 警察庁発表)

早いもので、あの時からもう12年たちます。

揺れの激しさに恐れおののき、足がすくんだあの日。押し寄せる津波のテレビ映像に、息を飲むしかなかったあの日。親戚や友人達の安否が気になりつつ、連絡も取れず呆然としたあの日。



本校では、赤十字山形県支部のお計らいにより、釜石市で被災した当時中学生の方から、オンラインでお話をお聞きできる機会をいただきました。

—わが語り部LIVEより—

地震が発生したその時、大きく長時間続く揺れに、中学校にいた生徒全員が恐怖を抱いたと言います。唯一できたことは、とにかく避難場所に移動すること。いつも一緒に避難訓練をしていた隣の小学校の子どもたちは、まだ校舎内にいました。待つべきか、避難行動を継続すべきか判断に迷いながらも、移動することを選択したそうです。第一次避難

場所(標高4m)で、小学生と合流。

その後校長先生から「中学生は小学生の手を握ること。」「そのままさらに高い第二避難所(標高10m)まで移動すること。」の指示があり、その声にうながされ全員で移動を始めました。高台に向かう小・中学生のわきを、迎えるために低地に向かって逆走する保護者の車列。後日、避難所の場所や避難の原則を、家族と共有していなかったことをたいへん悔やんだとのことでした。

第二避難所に到着した時、地響きのような音とともに大地が細やかに揺れだしたかと思うと、下水のような臭いが流れ込み、来た方角を振り返ると驚愕の光景がそこに。通ってきた道は大津波に完全に飲み込まれ濁流が今にも襲いかかってくるような状況だったそうです。



「お話の中にもあったように、災害は「いつか来る」ではなく「今日来る」と常に心に留めておかないといけないということがわかりました。また、どれだけ訓練をしていても、いざとなると焦りが勝ってパニックになってしまうことが、災害の恐ろしさであることを改めて感じました。

今後生きていく中で、私自身にあの日の記憶はないけれど、それでもあの日を生きていた身として、これから語り継いでいきたいと思えます。「今日」起こるかもしれない災害に備えて、早め早めの準備をしていくことを大切にします。」

(3年生の感想より)